

2024 年度

事業シート

事業名	リサイクルプラザ運営事業費	事業開始年度	1999
上位施策事業名	ごみ減量化・資源化事業費	担当局・部名	環境経済部
根拠法令等	入間市リサイクルプラザ管理要綱	担当課・担当名	総合クリーンセンター、清掃指導、ごみ資源推進担当
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	作成責任者	石井 治彦

実施の背景	事業実施の背景としては、日本経済の発展により市民生活が豊かになり生活様式が変化した結果、大量の廃棄社会が発生した。 こうしたごみ量の増加に伴い、将来、処理費の高騰や最終処分場の延命問題を引き起こすことが予測されたため、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進が市の重点施策となった。
-------	---

目 的 (何のために)	リサイクルプラザは、「一般廃棄物の減量及び再利用の促進に関する情報の提供」並びに「粗大ごみ及び家庭の不要品の再利用」を図る場として、市民の一般廃棄物に対する意識の啓発を図り、資源を循環的に利用する社会を形成することを目的に設置された施設である。
------------------------	---

事業概要

対 象 (誰・何を対象に)	入間市内でごみを排出するすべての者	対象者数（全住民に対する割合）
		全 人 （ 100 ％ ）
実施方法	☒ 直接実施	
	☒ 業務委託 又は ☐ 指定管理 （委託先又は指定管理者：シルバー人材センター・大樹作業所）	
	☐ 補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体： ）	
	☐ 貸付（貸付先： ） ☐ その他（ ）	
事業内容 (手段、手法など)	事業内容	
	・粗大ごみ及び家庭の不用品（古布等）の再生品の選別・修理・製作・販売 ・ごみ減量に関するイベント（リサイクルの日等）の開催 ・ごみ減量に関する啓発（社会体験や施設見学の受入れや説明会の実施など）、展示 ・ボランティアスタッフの協力による、体験教室やおもちゃ病院（おもちゃの修理）の開催や再生品の製作・販売	
関連事業 (同一目的事業等)	ごみ減量化・資源化事業費（事業費：2023年度221,867円、リサイクルプラザの消耗品、電話料金、プリンター代金）	

		2024 年度（予算）				2023 年度（決算）				2022 年度（決算）				2021 年度（決算）			
事業費 コスト	事業費合計	16,172		千円	15,133		千円	15,448		千円	15,192		千円				
	事業費内訳 （2023年度分）	ボランティアスタッフへ体験教室やリサイクル品製作の報償費：286,000円（238人） おもちゃ病院へのおもちゃ修理の報償費：95,000円（25回） 保険料（施設入場者傷害保険・施設管理者賠償責任保険・ボランティア傷害保険）：134,660円 年会費（リサイクルせっけん協会・おもちゃ病院協会）：22,000円 ボランティアスタッフ活動時のお茶代：5,400円 再生品の製作に伴う消耗品や器具の購入費（例：塗料、洗剤、釘など）：331,313円 再生品の製作に使用する機材の修理費（ミシンの点検・刃の研磨）：16,500円 再生品（さきおり）に使用する糸の整形費：20,000円 再生品の製作に伴う材料の購入費（例：糸、石けん用苛性ソーダなど）：34,045円 プラスチック一括回収啓発ステッカーの作成費用：51,000円 リサイクルプラザの販売対応や電話対応などの委託費：5,210,690円 選別・運搬・修理・洗浄など再生品の製作委託費：6,561,119円 リサイクルプラザ販売用の古布選別委託費：2,679,600円															
	担当正職員	0.3	人	2,370	千円	0.3	人	2,370	千円	0.1	人	790	千円	0.1	人	790	千円
	臨時職員等	0.1	人	450	千円	0.1	人	450	千円	0.3	人	1,350	千円	0.3	人	1,350	千円
	人件費合計		人	2,820	千円		人	2,820	千円		人	2,140	千円		人	2,140	千円
	総事業費	18,992		千円	17,953		千円	17,588		千円	17,332		千円				

事業シート

事業名		リサイクルプラザ運営事業費				事業開始年度		1999	
財源 内訳	国県支出金		千円		千円		千円		千円
	国県支出金の内容								
	地方債		千円		千円		千円		千円
	その他特財	6,630	千円	3,912	千円	3,373	千円	2,910	千円
	その他特財の内容 再生品の売却収入、ミニフリーマーケットの出店料								
	一般財源	12,362	千円	14,041	千円	14,215	千円	14,422	千円
財源合計		18,992	千円	17,953	千円	17,588	千円	17,332	千円
事業 実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）			単位	2023 年度	2022 年度	2021 年度	
		リサイクルプラザ来館者数			人	15,367	14,634	14,358	
		再生品売却量			kg	27,447	27,561	26,759	
		再生品売却額			円	3,886,047	3,344,387	2,896,026	
	単位当たりコスト	692円	/	再生品kgあたり					
事業 成果	成果目標 （指標設定理由等）	ごみの減量化及び再生利用を推進・実践するための拠点施設のため、ごみの排出量と資源化率を指標とした。目標値は令和3年3月策定の「入間市一般廃棄物基本計画」で定められた令和17年度までの目標値とした。							
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）			単位	2023 年度	2022 年度	2021 年度	
		ごみ総排出量			t	39782.78/36586	41885.84/36586	43237.32/36586	
		資源化率			%	23.10/27.4	22.55/27.4	22.85/27.4	
						/	/	/	
自己評価		廃止・凍結		国・県・広域		要改善	☒	現行通り・拡充	
評価の内容		再生品の販売や年10回行われる「リサイクルの日」、施設見学等を通じて市民へのごみの減量化及び再生利用を推進・実践は出来ている。 再生品の売買（需要）も一定量ある。							
課題	2023年度	施設が人口密集地にないため、来館者が限られている。費用対効果の観点からも、再生品の販売方法や施設の運営方法について、引き続き効果的な方法を検討する必要がある。							
	2024年度	上記の課題を踏まえ、民間活力の活用について検討する必要がある。 現在、クリーンセンターに搬入されたものの一部（古布など）は、民間企業に売り払う実証実験を行っている。一方、リサイクルプラザでも古着や木工品の販売により一定の収入があるため、官民連携に向けては、施設の目的を踏まえ、最適な方法を検討する必要がある。							
今後の予定		市民のごみに対する意識を変え、焼却や破碎ごみを減らし、再生利用を推進・実践するため、取り組み自体は継続実施していく必要がある。その中で、民間活力等の活用を含め効果的な事業の展開方法を検討していきたい。							
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）		所沢市：リサイクルふれあい館（エコロ） 狭山市：リサイクルプラザ 類似施設多数あり							
特記事項									